

きしゅう会計よもやまかわら版 Vol.49

2020.10.27

いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。



いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。すごいですねえ。鬼滅の刃！公開3日間で興行収入約46億円。これは日本を除く全世界の興行収入を超えている(*_*; 世界に占める日本の人口比は1.2憶／77憶=約1.5%なのに、残り98.5%の合計より上ということです。呆れるくらいの圧倒的。ただ、こここの読者の方は僕も含めて年齢層が高いので、鬼滅の刃の漫画を読んだ、もしくはアニメを観たという方は少ないのではないかと。そこで僕もアニメを少し観ただけですが、チラ解説&感想を書きます。1話目を見た時、人間を襲う鬼、鬼の血を浴びた人間は鬼になる「ん、よくあるゾンビもの？」と思いましたが、続けてみると鬼は「ああ」とか「うう」しか言わないゾンビとは異なり、意思をもち、桃太郎に出てくる鬼とも違い、組織だった集まりで、それぞれ特殊能力をもつ？「ん、和風デビルマン？」と思った5話目くらいでamazonプライムで観ていたのをストップしてしまいました。あのまま最後まで観ていたら、若い子の話題にもついていけたかなと思うと、ちと失敗（実際、クライアントで話に出たこともあるんです）ただこれだけ世間を騒がせている作品。劇場版観てこようかなって思っています。観てきたらまた感想を書きますね。

さて、詳しくもない鬼滅の刃の話はこのくらいにして、今回は初めての企画。



「一気にわかるシリーズ」として、今年の7月にシリーズ4作目「ガネーシャと死神」が出版された、「夢を叶えるゾウ」を1巻からまとめて紹介させて頂きます。1作目は2007年に出版されて現在では、累計400万部を超えるベストセラーです。僕が1作目を読んだのも2007年。当時小学生の息子に「だからパパはあかんのや」とこの本を薦められた（?）のを覚えています。この作品は小説タイプの自己啓発本。「あかんのや」は大なり小なり「だめパパ」という意味だったのでしょうか（笑）。内容はガネーシャという象の姿をした、大阪弁をしゃべるインドの神様が、自分を変えたいという主人公の前に現れて、いくつもの課題を出して、成長させ、夢を叶えさせていくというお話なのですが、酒もタバコも、甘いものも大好きなガネーシャ。ぼってり腹のでたメタボな象は師匠として頼りがいがあるように思えず、また笑えないダジャレ好きで、行動も発言もとてもコミカル。そして出される課題も表面的には「それ何？」なのですが、実は深い意味があるんです。また煩悩の消えてないお茶目なお釈迦様や、時には激しくキュートな貧乏神の幸子さん、コントをする



死神など、魅力いっぱいのキャストと一緒に笑わせてくれます。でもいつも最後はホオーと唸ってしまう。そんな物語です。ドラマにも舞台にもなったこの作品ですが、なぜか、映画にはなっていないんですね。今回の4巻は著者の水野さんのさらなる飛躍まで感じさせる、これまでとは次元の違う展開。是非映画にしてほしいものです。それでは其々1~4巻までを一気に解説します。これを読めばあなたはもう、夢ゾウソムリ工（？）

①「夢を叶えるゾウ」

主人公は冴えない若い男性サラリーマン。



セレブの飲み会でダメな自分を痛感し、酔いつぶれて帰宅、朝起きるとガネーシャが。見るからに怪しく胡散臭い腹のでたゾウ。それでも主人公は自分を変えたくて、ガネーシャの言う事を聞

いて、課題をクリアしていきます。そして自分でも成長を実感してきた主人公にガネーシャは、これではまだだめだといいます。「どうして？」の問いに「それは自分はやりたいことを仕事にしていないから」と答えます。そして本当にやりたいことを探す主人公。1巻はこのように自分のやりたいことを見つけるまでのお話です。その成長の過程で僕が一番心に残ったのは、「人間は意識を変えることはできない」というガネーシャの言葉。



「みんな意識を変えようとするんやけど、それは楽やからなんや。『今日から変わるんや！』って決めて、めっちゃがんばっている未来の自分を想像するのは楽やろ。だってまだ実際には全然頑張ってへんのやから。つまり意識を変えようすることは『逃げ』なんや」これまで、何度も何度も決めてはできずを繰り返してきた僕にとって、その原因がとてもよく分かったシーンでした（笑）。解決策を知りたい方は本書を是非お読みください。

②「夢を叶えるゾウ」

ガネーシャと貧乏神

今度は主人公は好きな仕事をしている売れぬピン芸人。「芸能界で成功してやる！」と脱サラして暫くは鼻息も荒く、同窓会に出席しては、「サイン貰えるのも今のうちやぞ」と、豪語していたものの、それも昔の話。今では同窓会の案内が来ても恥ずかしくて欠席続きのここ数年。そんな主人公の元にガネーシャが現れ、コンビを組むことに。と言うのも、ガネーシャは神々の世界で、誰が一番面白い神かの決着をつけるため、人間のお笑い界で開催されるコント日本一を決める大会に神が人間とコンビを組んで参加することになったのだという。



1巻と同じで成長する主人公。ただ、今回は少し複雑、同じ芸人仲間のガツン松田に死神がついて余命宣告を受ける。このことから松田の応援に回る主人公。お茶目なお釈迦様も退会に参加。貧乏な主人公のアパートに住み着いていた疫病神の幸子さん。やさぶれしていく主人公は誤って、幸子さんを殴ってしまいます。でも貧乏神の幸子さんはそれが幸せなようで、嬉しくて「幸子幸せー」と声を上げます(笑)。最後は読んでのお楽しみにしておきますね。

さて、2巻で僕が一番心に残ったのが、実は冒頭の22頁。自分の才能を疑う主人公に、

ガネーシャが言った言葉。「才能がない?自分何か勘違いしてるんちゃうか」「人間は成長する生き物やねん。人間はな、この地球に生まれた時は『こんなでほんまにやってけんのか?』見て心配になるくらい無力な存在やったんや。ライオンみたいな牙もあらへん。鳥みたいに空を飛べるわけでもないし、シカやサイみたいに自分を守る角もない。それこそ自分の言う『才能』をまったく持てへん状態で生きてきたんやで。せやけど、人間は『成長』したんや。二本足で立てるようになって、道具作れるようになって、火や言葉を使いこなせるようになった。人間を、他の動物らと決定的に違う存在たらしめたんは『成長』や」と励ますシーン。オーディオブックで最近聞き直したのですが、このガネーシャの優しい語りに、泣きそうになってしまいました。また貧乏神の幸子さんがとってもキュートな声でかわいいんです。2巻は是非オーディオブックで聞いてください。



③「夢を叶えるゾウ ブラックガネーシャ の教え」

今度の主人公は女性。彼氏もなく、仕事もなんだかつまんない。だけど、そんな生活を変えたいと、よく当たると評判の女占い師のもとへ行くところから始まります。質問もされないので、悩みや状況などをズバッと当てられて、「この人は今までとは違うほんまもんだ」と信じてしまい開運間違いなしの高価なガネーシャ像を言葉巧みに買わされてしまいます。ここで、今回は詐欺もテーマなのだろうと思い、ではこの彼女の悩みをズバリ当てるトリックはどうするんだと思ったのですが、それはお伽話的な落ち。でもそれが日印のビジネス神様対決にまで発展するが楽しい。今回のテーマはビジネスで成功する方法と幸せな生き方です。

王道と邪道のビジネス対決は商売をされている方に参考になります。面白かったのが、占い師に騙された主人公がガネーシャのペンダントを盗んでしまい、ガネーシャが普通のゾウになってしまふシーン。でも物悲しい話にしないのが著者の水野流なんでしょう。すぐに釈迦たちと、麻雀をするシーンになったのには笑ってしまいました。この主人公を騙したのが何かももこの巻ではキーとなりますので、これも書きません。3巻もオーディオブックで聞く方が楽しいと思います。



④「夢を叶えるゾウ ガネーシャと死神」

今回のテーマは「夢と死」です。主人公は奥さんと小さな女の子の子供と幸せに暮らす男性。

これまでと違い、今の状況に満足せず、何かを変えたいと思っているわけではありません。幸せです。そんな主人公に突然の余命3ヶ月宣言で事態が急転。自分の死んだあとに、嫁と子供が苦労しないようにするためにはこれから何をすればいいんだろう、悩んでいるところにガネーシャが登場します。とにかくお金を作ろう!1億円作ろう!そうすれば不安はなくなるはずだと考える主人公に、いつものように課題を出していくのですが、出だしが「健康に良いことを始める」なんです。今更何をと納得できない主人公にガネーシャはなるほどという言葉を返します。ここはネタバレしないように隠します。2巻で登場した死神が今回も登場。2巻は死がテーマではなかったですが、今回はがちで死がテーマ。最後は哲学の世界観。人間は死を回避する方法を工夫(医療の進歩)することをし続けて来た結果、大昔と違い死をとても恐れるようになってしまった。でも死ぬってどういうことが分かってるってガネーシャは問い合わせるので。昔読んだ戯曲で「宇宙の始まりはビックバン。だからこの世にあるものは全てその時の欠片なんだ、土も石木も人間もその時の欠片なんだ」ってシーンを思



い出しました。今回の夢ゾウはさらにその上の世界観。深く考えさせられます。でも一番泣いたのは、384頁の1行目の主人公の言葉。なんでもない普通の言葉なんだけど泣ける。是非読んでください。ここで泣ける人と一緒にお酒を飲みたいなと思っています。

さて、本書の中に登場する死神は数え切れない死に立ち会っているから分かるんだと、人間が死に際に後悔する10のこと教えてくれています。

- ① 本当にやりたい事をやらなかつた事
- ② 健康を大切にしなかつた事
- ③ 仕事ばかりしていた事
- ④ 会いたい人に会いに行かなかつた事
- ⑤ 学ぶべき事を学ばなかつた事
- ⑥ 人を許さなかつた事
- ⑦ 人の意見に耳を貸さなかつた事
- ⑧ 人に感謝の言葉を伝えられなかつた事
- ⑨ 死の準備をしておかなかつた事
- ⑩ 生きた証を残さなかつた事

実は昨日お通夜に行ってきたんです。去年のちょうど今頃、僕は脳出血で入院していましたが、その時お見舞いに来てくれて、ベットの上の僕に「名倉はん、一回死んでるんやで、もう一回命を貰ったと思ってがんばりや」と言ってくれた社長のお通夜でした。享年66歳。お焼香の時、「社長、早すぎます!でも社長は普通の人の何倍も働き、何倍も稼ぎ、何倍も楽しんだと思います。向こうでもその勢いで楽しんでくださいね」とお別れしてきました。4巻を読んだばかりでのお通夜。いつもと違う感慨がありました。命の期限を意識して生きたいと思います。

